

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

令和三年三月度 入選句 (投稿総数二千十三句・小中学投句数千五百五十句)

### 特選

花ふぶきまばたきする間に消えてった 大垣市 小久保 玲那(小五)

「花吹雪は、日本語の中で最も美しい言葉の一つです」と言った言語学者がおられました。風に舞い飛ぶ花びらを吹雪にたとえたことばです。桜の花の散るさまを、「まばたきする間に消えてった」と、一瞬の強い風につて散った花びらが、視界から遠くへ消えていったと、花ふぶきの美しくもはかない様をうまく詠い上げました。

ひなまつりわたしもひめになりたいな 大垣市 小山 りな(小二)

三月度の俳句にふさわしい一句です。三月三日は、桃の節句ともいわれ、女の子の成長と幸せを願って、ひな段にひな人形などを飾ってお祝いをする日本の伝統的行事です。この句は、作者のやさしい人がらがうかがえる一句です。作者は、ひな段に飾られたおひなさまを見るにつけ、「私もこんなおひなさまになつてみたいな」と、自分の願いを詠い上げています。

みずたまり私の顔と春の虹 大垣市 久江 七夢(小六)

「虹」は、本来、夏の季語です。「春の虹」は、一瞬、雨がやんだあとなどに見られることがあり、夏の虹より淡く、消えるのも早い特徴があります。その淡く消えやすい春の虹が、作者自身の顔と一緒に足もとの水たまりに映つて見えたというのです。空にかかった虹ではなく、地上の水たまりに映つた虹をとらえて、一句をものにすることができました。

### 秀逸

おぼろ月こっそりぼくらを見ているよ 大垣市 いとう こうすけ(小六)

目ざめたらバレンタインに母のチョコ 大垣市 内海 昭吾(小六)

せつぶんでこころのおにをおいはらう 大垣市 安田 怜穂(小六)

つくしさんいろんなひとをよんでいる 大垣市 廣田 さくら(小三)

はるのかぜパパのスリッパとばしたよ 大垣市 みや川 こうた(小四)

サクラがねさくときぼくが生まれたよ 大垣市 上 田 奏(小五)

初桜さいたと思えばちつていく 大垣市 渡邊 詩月(小六)

桜散るなんだかさみしいクラスがえ 大垣市 月森 享介(小六)

にじ色にそまり飛んでくしゃぼん玉 大垣市 清水 杏莉(小五)

姉ちゃんとキャッチボール春の風 大垣市 小笠原 怜子(小五)

入選

風にのり桜がまうよピンク色 加茂郡川辺町 高木 毬花(高二)  
 春の山のぼって町をながめたい 大垣市 成瀬 優伸(小六)  
 桜鯛名前のおり桜色 大垣市 林 心楽(小六)  
 春の空くも一つない青い空 大垣市 いとう こうすけ(小六)  
 見上げれば桜の花びら落ちてくる 大垣市 吉田 飛鳥(小六)  
 らんらんとおどっているよつくしさん 大垣市 多湖 雪乃(小三)  
 しおひがりきれいなかいがいっぱいだ 大垣市 いち川 あおい(小三)  
 みつけたよポカポカようきつくしさん 大垣市 那須 朝陽(小四)  
 春の川のぞけばそこは別世界 大垣市 松浦 優子(小六)  
 いちごがりあかのほうせきおいしいな 大垣市 こんどう ゆめか(小二)

入選

かわいいいな入学式の一年生 大垣市 宮川 莉緒(小五)  
 どつきどき弟もうすぐ新入生 大垣市 坂下 りあ(小五)  
 電線に止まって歌うすずめの子 大垣市 中村 瑚乃羽(小五)  
 石ぼん玉鏡のかわりわれうつす 大垣市 安達 未媛(小五)  
 しゃぼん玉青い空へと届け物 大垣市 林 大翔(小六)  
 旗を持ち横断歩道水温む 大垣市 三日月 杏奈(小六)  
 藤の花うす紫の雲が咲く 大垣市 河合 俐空(小六)  
 りゅうの玉ブルーダイヤとまちがえる 大垣市 田中 昭成(小六)  
 むらさきの花からませてふじの花 大垣市 宮内 梨那(中二)  
 どこまでも遠くへとぶよしゃぼん玉 大垣市 静 柚奈(中二)

選者吟

畦青み畦ふくらみて輪中村

幹

郎